

①目標	②基本方針	③状況変化	④重点活動計画(中期計画) <戦略>	⑤H24年度計画 <戦術>
1. 交流人口の拡大 2. 地域関連産業の振興 3. 地域における雇用の拡大	1. 地域固有の景観等の資源の保全・改善・活用による「美しい景観づくり」、「活力ある地域づくり」、「魅力ある観光空間づくり」を総合的に推進するために、行政機関は活動団体と密接に連携する。 2. 関係行政機関は、地域活動団体と連携し、ルート運営に必要な社会資本整備や情報発信等を積極的に推進する。 3. 地域の活動団体、代表者会議はルート運営活動計画に基づく活動を展開するとともに、不断の点検・改善を行い、ルート品質の確保に努める必要がある。 4. 地域に対して開かれたルート運営を図るため、地域活動団体や代表者会議は、開かれた組織運営を図るとともに、ルート運営における地域住民参加の取組を積極的に推進することが必要である。	○活動団体数、指定ルート増加による活動の多様化、深化 ○外国人観光客の増加 ○国際化の進展、地域間競争の激化、日本では人口減少 ○インターネット等「IT技術」の劇的向上 ○魅力的な地域や活動が投資対象となる時代到来 ○活動団体メンバーの高齢化、固定化 ○東日本大震災を契機とした国民意識の変化(絆、ボランティア意識等) ○財政状況の逼迫 ○新たな官民連携(PPP)の展開	情報発信の強化 ～国内外への戦略的情報発信 広報計画の策定と実施(PDCA) 域内対応、国内対応 外国人対応 広報ツールの見直し 連携の促進・強化 ～個々の動きを連携させた総合力向上 魅力ある観光空間づくり ルート間連携 ビジネルモデル構築 体制構築 人材育成 ～今、将来を担う人材育成 現世代のレベルアップ 次世代への継承、次世代の育成 住民への理解促進 その他 イベント的対応 制度の見直し	・札幌駅前通地下歩行空間での広報活動 ・空港での広報活動 ・フェリーターミナルでの広報活動 ・道の駅での広報活動 ・各種イベントでの広報活動(代々木公園、札幌雪まつり等) ・各種誘致活動との連携、ドライブルート、web等 ・HPの充実(多言語ドライブサイトへのリンク等) ・Twitter、Facebook、トリップアドバイザー、多言語表記等 ・地域と行政等が連携した沿道の景観改善・清掃・植栽、道路空間の活用促進等 ・ガーデン街道との連携(大雪・富良野ルート×十勝シーニックバイウェイ)、シーニックカフェ連携 ・“DoCoMo”、“NEXCO東日本”、“星野リゾートマム”等民間企業との連携継続 ・着地型観光の企画・展開 ・スタンプラリー等道の駅との連携強化・継続 ・ワーキング、勉強会の開催 ・全道フォーラムの見直し ・勉強会、意見交換会、講演等の開催 ・学校シーニックの展開 ・地域参加型イベントの開催 ・道の駅20周年との連携 ・ほっかいどう100の道(道新主催)との連携 ・道東自動車道開通効果を生かした取組 ・表彰制度の見直し